

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 141-0022
 住 所 東京都品川区東五反田2-18-1
 氏 名 東洋ガラス株式会社代表取締役社長 清水 泰行 印
 (代理人)取締役工場長 五味淵 忠
 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	東洋ガラス株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区夜光3-2-3		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	21	窯業・土石製品製造業
主たる事業 の内容	ガラスびんの製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	10,721	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	設備管理課
		所在地	川崎市川崎区夜光3-2-3
		電話番号	044-288-4361
		FAX番号	044-287-4739
		メールアドレス	0
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成22年年度 ～ 平成24年度 (報告年度平成23年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号および第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号および第3号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号および第3号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号および第3号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況（排出係数固定）

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 35,801 t-CO ₂ (調) 35,450	(実) 21,297 t-CO ₂ (調) 20,906	(実) 20,482 t-CO ₂ (調) 20,152	(実) t-CO ₂ (調)	(実) 30,271 t-CO ₂ (調) 29,855
削減率		(実) 40.5 % (調) 41.0	(実) 42.8 % (調) 43.2	(実) % (調)	(実) 15.4 % (調) 15.8

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の活動量	単位				
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量原単位等の値		0			
削減率		%	%	%	%

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	平成22年1月よりガラスびん生産ラインの4ライン中2ラインを休止したため、基準年度に対する排出量は59.5%に減少した。
第2年度	基準年度には4ライン稼働＋加工3ラインでの生産を行っていたが、社内の合理化により、生産の一部を他工場へ移管し、平成23年10月より2ライン稼働となった。その結果、基準年度に対する削減率は42.8%となった。
第3年度	

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、 第2号、 第4号該当者等)	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー使用量等の把握、計測、記録管理 ・ボイラ設備の効率管理 ・空気調和設備の管理 ・ポンプ、ファン、ブLOWER、コンプレッサ等の省エネ ・照明設備の運用管理(省エネ啓蒙活動)
	第1年度	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー使用量等の把握、計測、記録管理 (設備単位の電力計、ガスメータ追加を行い詳細データの取得を実施) ・ボイラ設備の効率管理 (ドレントラップ不良や蒸気漏れ箇所の修理を行った。) ・ポンプ、ファンの省エネを実施 (循環ポンプの24h運転をタイマー運転に変更した) ・照明の省エネ (不要照明の消灯、省電力照明CCFLやLEDタイプへの入替え)
	第2年度	<ul style="list-style-type: none"> ・更新における措置 事務棟空調に使用していた、吸収式冷凍機、およびガス式温水発生機を最新式の吸収式冷温水発生装置に更新した。 ・ファンの回転数制御による省エネ 22kW排気ファンをインバータ駆動に変更し電力量の削減を行った。 ・照明の省エネ 電力使用制限の一環として実施。実施前との比較で40W蛍光灯約1,900本(46%)を削減した。
	第3年度	
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none">・ ガラスびんの軽量化・ ガラスびんリサイクルに貢献する技術の開発・ 廃棄物削減の取り組み・ かわさきエコドライブの取り組み
第1年度	<ul style="list-style-type: none">・ ガラスびんの軽量化技術の取り組み・ ガラスびんリサイクルに貢献する技術の開発（カレット選別機開発中）・ 廃棄物削減の取り組み（目標：760 t/年 実績：645 t/年）・ エコ運搬制度を導入。関連運搬企業へ制度取り組みの依頼を実施。
第2年度	<ul style="list-style-type: none">・ ガラスびんの軽量化技術の取り組み・ 廃棄物削減の取り組み（目標：323 t/年 実績：251 t/年）
第3年度	

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績 (排出係数反映)

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	20,317	t-CO ₂
(調)	20,313	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等单位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k_l 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
東洋ガラス株式会社川崎工場	川崎市川崎区夜光 3-2-3	2114	ガラスびんの製造	20,317 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 以上 1,500k_l 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k _l 未満	
300~400k _l 未満	
200~300k _l 未満	
100~200k _l 未満	
100k _l 未満	

(3) 事業所等单位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	
------	--